明治八歳
大阪錦画新聞
第十七号
明治八年第三月六日頃の事
長崎縣下第一大區
新大工町の建藏といへるものハ元や
乙地金賣買を渡世とせしが
金貨に擬貨造りしが元久留
米藩某の娘お鶴といふをひかけ男の助藏や女房の勤めいつまで我もまさ動き
出して迫々と繁昌なすに随ひて、ぬくぬる尻ふらくろう氣儘自由の建藏が隠し
婦とえのひ逢ひ深くなる身の淺ましさ、だまして妻を親里へ歸して跡へ高の
美顔新婦とむつましく添ひて居ることへきしお鶴も流石にきつける人沙汰よ飛び妾ように
うけ来り様子を見きへ聞くが如く云ねにほとの彼の婦とよりて物すいで行くべきと
阿片煙草を十分に呑んで死せしが翌日より新婦ハ氣に狂ひだし死にしお鶴よ
似たる聲でうらみ罵る有様へさも恐ろしきこの噂元より死たる幽靈の
有るべくもあらねども、こハ道ならぬ事をせしと
我と發せる神經病というべし不人情にも實よ
うらめしし
浪花画工
笹木芳瀧述
建造の隠し妻
建造
石和板
彫九市